

国立大学法人名古屋大学 東山キャンパス



所在地：愛知県名古屋市千種区不老町
敷地面積：699,262㎡
建床延面積：126,878㎡
照明更新竣工：平成21年12月まで

名古屋大学は、環境を取り巻く厳しい状況を認識し、持続可能な地球環境保全に積極的に取り組まれています。照明においては各棟の共用部門を環境性能の優れたLED照明に更新され、省エネ・CO₂削減が図られています。

教育・研究を通して「環境への負荷を低減する技術」「環境に負荷を与えない技術」の開発に挑戦

名古屋大学は、1939年に設立された名古屋帝国大学を直接の母体とする国立大学で、現在、9学部、13研究科、3附置研究所からなる基幹的総合大学として、世界最先端の高度な研究や教育を展開、地域を支える高度医療の実践などを積極的に図り、多くの有為な人材を広く輩出してきています。

また、先端的な教育・研究を通して人材育成及び社会への知的貢献に大学の役割を重んじる一方で、地球温暖化の影響は深刻な問題としてとらえ、持続可能な地球環境の保全にも積極的に取り組まれています。その一環として東山キャンパスの各棟では、エレベータホールや廊下、トイレなどの照明を環境性能に優れたLED照明に更新し、大幅な省エネ・CO₂排出量の削減が図られています。

エレベータホール・廊下・トイレなどに環境性能に優れたLED照明を採用

10階建ての工学部1号館などの各階エレベータホール及び廊下の照明は、これまでは27Wコンパクト形蛍光灯ダウンライト（人感センサによるON/OFF制御）が採用されていましたが、今回の照明リニューアルでは、同等以上の明るさを消費電力13.9Wで実現するLEDダウンライト900シリーズ（白熱灯器具100Wクラス）効率重視タイプ白色相当（器具光束940lm、相関色温度5000k）に更新。既設の人感センサもそのまま生かし、さらなる省エネ、CO₂削減が図られているとともに、40,000時間の長寿命による省メンテナンスが実現されています。

総合研究棟（理E館）をはじめとするトイレの照明は、LEDダウンライト500シリーズ効率重視タイプ白色相当（器具光束460lm、相関色温度5000K）を中心に採用し、わずか6.9Wの消費電力で白熱灯器具60Wクラスと同等の明るさを確保。消費電力を大幅に抑制し、長時間点灯に対応しています。また、洗面所に900シリーズ（白熱灯器具100Wクラス）電球色相当を使用し、明るく暖かみのある雰囲気を出しながら省エネを図っています。



工学部1号館のエレベータホールの照明 LEDダウンライト900シリーズと人感センサで人の動きを検知して点滅制御



工学部1号館の廊下の照明 LEDダウンライト900シリーズと人感センサで点滅制御



本部1号館トイレのLED照明



理学部E館トイレのLED照明



本部1号館トイレのLED照明

主な照明器具一覧				
設置場所	器具名	形名	台数	備考
理学部E館	LEDダウンライト500シリーズ	LEDD-66001NW-LS1	約340	LED消費電力:6.9W
	LEDダウンライト900シリーズ	LEDD-70001NW-LS1	約50	LED消費電力:13.3W
工学部1号館	LEDダウンライト500シリーズ	LEDD-66001NW-LS1	約60	LED消費電力:6.9W
	LEDダウンライト900シリーズ	LEDD-70001NW-LS1	約160	LED消費電力:13.3W
本部1号館	LEDダウンライト300シリーズ	LEDD-44001NW-LS1	約20	LED消費電力:4.5W
	LEDダウンライト500シリーズ(調光用)	LEDD-66007NW-LD1	約50	LED消費電力:7.4W